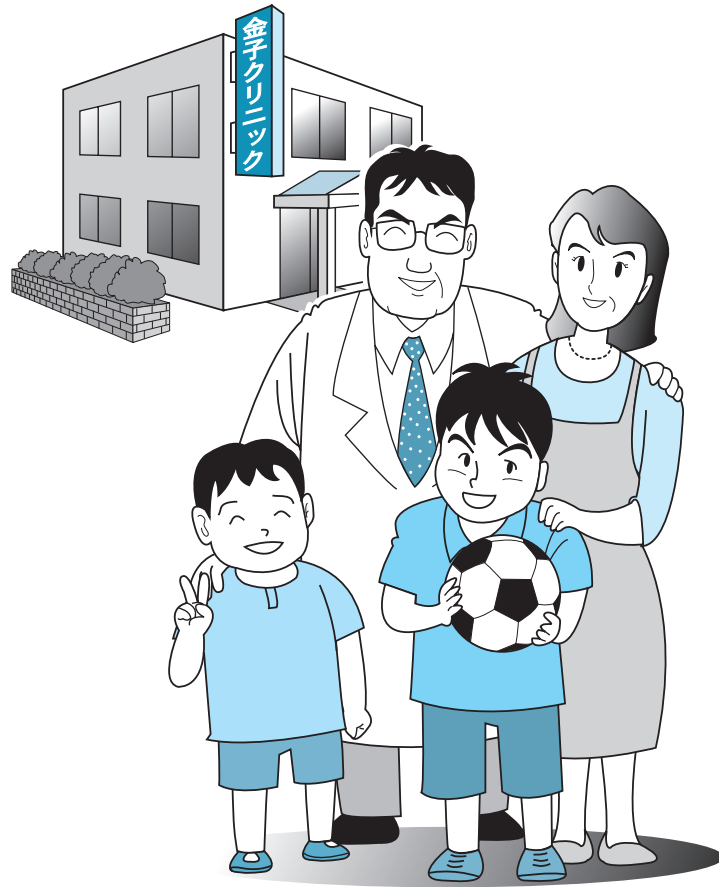


個人開業医へ将来に向けた 先進保険設計コンサル

——子どもの教育費から老後の備えまで、各種リスクに対応——

今回は、個人医院の経営が安定してきて、経済的にも余裕の出たドクターに、将来へ向けたトータルな「備え」を保険で提案する。医学部進学を前提とした子ども達の教育資金、自分達夫婦の老後の生活資金はもとより、これまで医院経営を軌道に乗せることを優先し二の次になっていた各種リスクへの備え（死亡保障、収入保障、所得補償、医療保障など）も充実させる。保障と資産形成を兼ねたプランとして、外貨建てや利率変動型を多用した先進的な保険設計を紹介する。



顧客プロフィール

夫 **金子慎一** 45歳 開業医
 年収1,500万円
 預貯金3,000万円（銀行預金主体）
 妻 **玲子** 44歳 専業主婦
 長男**一男** 10歳 小学4年生
 次男**信二** 7歳 小学1年生

相談者の慎一氏は、10年超の勤務医（その間に米国留学も経験）を経て、40歳で独立し、土地建物を取得して1億円の居宅兼医院を開業した。経済的にも安定してきて、長男・次男の医学部進学や留学に向けた教育資金積み立てと夫婦の老後の生活並びに各種リスクに対してしっかりと備えたいとの要望がある。

今月のFP

出口幸一◎45歳

実績あるFPコンサルティング。ドクターマーケットや為替に強い。今回の相談者である金子慎一の幼友達。



金子家のニーズ

金子慎一は、真面目で誠実な人柄と内科医としての的確な処置の実績ゆえ患者からの評判も良く、医院を開業以来、順調に事業を伸ばしてきた。有名大学の付属病院での勤務医時代に米国の大学病院へ研修医として派遣された経験も、彼の医業としてのスキルを確固たるものとしている。

開業から5年が経ち、やっと経営も軌道に乗り、経済的にも安定してきた。金子は将来に向けた備えを真剣に検討する必要性を感じて、友人の出口に相談を持ちかけた。

「出口。こんな時間に来てもらって申し訳ない。昼夜を問わず、患者さんに接してきたこの5年、必死だったのは出口が一番知っているよな。最近やっと精神的にゆとりが出てきて、次男坊も小学校に入ったことだし、そろそろ将来に向けた備えを始めたんだ。信頼している君に全て任すから、金子家の将来プランを設計してくれよ」

「金子も社会に出て20年、65歳勇退として残り20年、ちょうど中間点だ。これからの20年でできることをしていこう。いくつか確認したいことがあるが、今から聞いてもいいか。プライベート面にも突っ込みたいのだが…」

「ああいいとも。酒が入った方がしゃべりやすい。一杯付き合え。女房も一緒だ」

そう言って金子は、妻の玲子と晩酌の用意に取り掛かった。酔いも手伝い、金子夫妻の弁舌も滑らかになり、次のようなニーズを出口はしかと受け止めた。

教育面

- ①2人の息子は中高一貫の私立に進学させ、医学部へ行かせたい。
- ②同時に、金子と同じように米国の先進医療を学ばせたい。

医業

- ③金子自身は医療法人化する希望はない。医療法人に留保した資金が将来個人に払い出しにくくなる傾向を危惧している。
- ④勇退目標年齢は65歳。老後は悠々自適、ニュージーランドやカナダでロングステイする。

リスク

- ⑤金子家の系統は、脳血管疾患系に罹患する率が高いことが心配。
- ⑥妻の玲子は元看護師だが、自分に万が一のことがあった場合でも職場復帰せず、子どもらへの高等教育を含め今の生活を確保させたい。

分析作業

前掲のニーズを満たすべく出口は次のような分析・検証作業から着手した。

(1) 将来家計収支分析

特に年金加入履歴から万一時の必要保障額を算定した結果、団体信用保険が発動する住宅ローン5,000万円（35年返済）を除いても、次男の自立する玲子61歳までの必要保障額累計が、現時点で1億6,000万円弱になることが判明した。

(P.16図表1および図表2参照)

これは残額3,752万円（残期間15年）ある開業時に借り入れた事業用借入金と、2人の子どもの中学以降医学部までの私立進学に伴う教育費負担が大きな要因である。

ちなみに、万一時の62歳以降の玲子の老後生活の必要額合計は約8,100万円と算定された。

(2) 保険分析

金子慎一加入の保険を分析（P.16図表3）し、保険の基本目的に対する感応評価を実施した（P.17図表4）。その結果は下記の通りである。

①積み立て

学資目的として満期200万円のみ養老保険があるが、定期保険付でかつ低金利下での加入で、その資金効率は非常に低い。また、老後への備えは意識してこなかったゆえ、やむをえないが、終身保険が非常に薄いこともあり、現行ではその機能はないに等しい。

②債務保証・家族保障

図表1および図表2でも明らかな通り、団体信用保険の付いた住宅ローンは万一の場合は免責となるが、開業時に必要とした事業用借入金と多額の教育費、その他生活費用の必要保障額合計から、明らかに現行保障は合致していないことが判明した。

③生涯保障

金子慎一にとっての生涯保障は、現時点は葬式代と事業清算に伴う費用向けといえるが、将来的には相続に関わる